

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	<p>文法への扉1 「走って」いるのは誰？ 文法1 文法を生かす 1時間</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識する。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。</p> <p>2 P230「文法1 文法を生かす」を読む。</p>	<p>【知・技】</p> <p>既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。</p> <p>【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に取り組もうとしている。</p>
5月	<p>説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす 3時間</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	3	<p>1 話題を決め、情報を集める。</p> <p>2 話の構成を考える。</p> <p>3 スピーチの会を開く。</p> <p>4 交流する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) <p>【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。</p>
5月	<p>言葉1 相手や場に応じた言葉遣い 1時間</p> <p>◎相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつ。</p> <p>2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。</p> <p>3 相手や場に応じた表現について理解する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)</p> <p>→敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、実際の使用場面を想定しながら、適切な使い方を考えている。</p> <p>【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。</p>
5月	<p>学びて時に之を習ふ ——「論語」から</p>	1-2	<p>1 「論語」について知る。</p> <p>・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」</p>	<p>【知・技】</p> <p>・歴史的背景などに注意して古典を読む</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	漢文の訓読 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		ち」を読む。 2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。	ことを通して、その世界に親しんでいる。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させようとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ俳句や和歌、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】 語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
2 視野を広げて				
5月	作られた「物語」を超えて 3時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 2 3	1 全文を通読する。 2 論理の展開を捉える。 3 筆者の主張を捉える。() 4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。 5 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) 【態】 進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
6月	思考のレッスン 具体化・抽象化	1	1 本文を通読する。 2 具体化と抽象化の程度について理解する。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>1時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識する。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>3 学習を振り返る。</p> <p>・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか、確認する。</p>	<p>【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。</p>
6月	<p>論理の展開を意識して書こう</p> <p>グラフを基に小論文を書く</p> <p>4時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3-4</p>	<p>1 課題に沿って材料を集める。</p> <p>◇グラフの数値の読み取り方や分析の方法を話し合わせる。</p> <p>2 構成や内容を考える。</p> <p>・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。</p> <p>・多様な読み手を説得できるよう、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。</p> <p>3 小論文を書く。</p> <p>・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。</p> <p>4 交流する。</p> <p>・友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と結び付けたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか挙げる。</p> <p>・友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考える。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。</p> <p>【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。</p>
6月	<p>漢字 1 熟語の読み方</p> <p>漢字に親しもう 2</p> <p>1時間</p> <p>◎常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識する。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1</p>	<p>1 P58導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。</p> <p>2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。</p> <p>3 練習問題に取り組む。</p> <p>4 問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア)</p> <p>→漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3 言葉とともに				
6月	<p>俳句の可能性</p> <p>4時間(読②書②)</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識すると</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>1 俳句の特徴を確認する。</p> <p>・リズムや言葉の響きに注意して、それぞれの俳句を朗読する。</p> <p>・俳句の決まり事や形式を確認する。</p> <p>2 筆者の評価のしかたを捉える。</p> <p>3 好きな俳句を選び、鑑賞文を書く。</p> <p>・鑑賞文を読み合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・俳句の表現意図や目的に対して、特に効果的だと感じた語句を挙げる。</p> <p>・友達の鑑賞文を読んで、新しく気づいた表現の魅力や工夫について、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・表現のしかたの中で、俳句の創作に生かせそうなことを挙げる。</p> <p>5 俳句の創作に取り組む。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</p> <p>・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】進んで表現のしかたなどを評価し、学</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	技(2)イ) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2	む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】 ・文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。 ・文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
7月	情報整理のレッスン 情報の信頼性 1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 本文を通読し、問題1に取り組む。 ・メディアが伝える情報は編集されているため、情報の信頼性を吟味する必要があることを確認する。 ・問題1に取り組む。 2 問題2に取り組む。 ・同じ事実でも、情報の発信者の受け止め方や伝え方などによって、情報を受け取る側の印象も変わることを確認する。 ・発信者がどのような意図で報じたかを考える。 ・問題2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・情報の信頼性の確かめ方について、生活の中で大切にしたいことを挙げる。	【知・技】 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。 【態】 積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして問題に取り組もうとしている。
いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 『私の一冊』の紹介、「ブックレビュー」、「三年間の読書の振り返り」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) 【態】 進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	向上させようとする。(学びに向かう力、人間性等)			
7月	<p>「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと？ 1時間</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させようとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。</p> <p>2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。</p> <p>3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>【態】進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。</p>
7月	<p>季節のしおり 夏</p> <p>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・夏の気象にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ俳句や和歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	2	<p>2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。 <p>◇「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組みせるとよい。</p> <p>3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。 	<p>めて、文章全体を整えている。(B(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) <p>【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。</p>
9月	<p>言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語 1時間</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。</p> <p>2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句を使って短文を作る。 ・ことわざや故事成語の意味を調べる。 <p>・P123「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。</p> <p>◇インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。</p>
10月	<p>聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 1時間</p> <p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対談の準備をする。</p> <p>2 対談を行う。</p> <p>◇聴衆には、対談の様子を観察させる。授業の最後に講評させてもよい。</p> <p>◇「相手や場に応じた言葉遣いができていたか」「話し手の内面に迫る質問ができていたか」など、評価の観点を示したワークシートを配付しておくもよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。 	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ)</p> <p>【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。</p>
10月	<p>漢字2 漢字の造語力 1時間</p> <p>◎常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当</p>	1	<p>1 新しい言葉が考え出された経緯を知る。</p> <p>2 「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。</p> <p>3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識して、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			の中で使い慣れている。(1)ア) 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 自らの考えを				
10月	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う 3時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 2 3	教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 3人の筆者の提言を通読する。 ・新出漢字を調べる。 2 文章の要旨を捉える。(課題1) 3 文章を比較して評価する。 ◇三つの提言をどのように評価したか、根拠を明確にさせる。 4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。 ◇教科書に示された書きだしを参考に、三つの提言に対する自分の考えをまとめさせる。 5 学習を振り返る。 ・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。 ・文章を批判的に読み、評価するときには留意すべきことは何か、考える。 ・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立つと思うものを書き留める。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) 【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
10月	考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く 5時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 2 3-4 5	ねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 題材を選ぶ。 2 観点を決めて分析する。 3 構成を考える。 4 批評文を書く。 5 友達と文章を読み合う。 6 学習を振り返る。 ・	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) 【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
10月	漢字に親しもう3	1	1 新出漢字を確認する。	【知・技】常用漢字の大体を読んでいる。ま

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 文法2 文法のまとめ 1時間 ◎常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識する。(学びに向かう力、人間性等) ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識し、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		2 練習問題に取り組む。 ◇部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 3 「ない」の文法上の違いを理解する。 ・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。 4 文法の問題に取り組む。 ・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。	た、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) 【態】 今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。 【知・技】 単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) 【態】 単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
10月	聴きひたる 初恋 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 ・近代に作られた文語定型詩を聴き、響きやリズムなどについて気づいたことを話し合う。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) 【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の気象にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を受け継ぐ				
11月	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 1時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)	1	1 P146「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。 2 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。	【知・技】 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) 【態】 進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>読書案内 本の世界を広げよう 1時間</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>		<p>2 読んだ本や、興味をもった本について語り合う。</p> <p>・読書が自分の生き方や社会との関わりをどのように支えてきたか考える。</p>	<p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、読んだ本や興味をもった本について語り合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 未来へ向かって				
1月	<p>温かいスーブ (2時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>アラスカとの出会い (2時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>律儀な桜 (1時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識すると</p>	<p>1-2</p> <p>1-2</p> <p>1</p>	<p>本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。</p> <p>2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。</p> <p>3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <p>2 筆者の生き方や考え方を読み取る。</p> <p>3 筆者の生き方や考え方について話し合う。</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <p>2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。</p> <p>◇最終段落や「律儀な桜」という題名に着目させ、筆者がどのようなことを考え、読者に何を伝えようとしているかを考えさせる。</p> <p>◇自分の知識や経験と比べながら、考えたことを文章にまとめさせる。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。</p> <p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。</p> <p>【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。</p> <p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>→桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>【態】人間、自然などについて進んで自分の</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>わたしを束ねないで (1時間)</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。</p> <p>2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。</p>	<p>意見をもち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。</p> <p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。</p>
1月	<p>三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする 5時間(話聞①書④)</p> <p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理し</p>	1 2 3-4 5	<p>ねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 冊子のテーマを決める。 ◇教科書や学習記録を読み返したり、友達と話したりして、三年間の学習を振り返らせる。 ◇卒業文集や自分史をまとめる学習などに発展させてもよい。</p> <p>2 冊子の内容と構成を考える。 ・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。 ・冊子全体と紙面の構成を考える。</p> <p>3 冊子を作る。 ・三年間の学びを冊子にまとめる。</p> <p>4 グループで発表会を開く。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) <p>【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	3		<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) <p>【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。</p>